

## 高等研究院研究者育成特別プログラム（テニュアトラック制度） 中間成果報告会を開催

12月1日(月)、野依記念学術交流館カンファレンスホールにおいて、高等研究院研究者育成特別プログラム（テニュアトラック制度）中間成果報告会が開催されました。本学の教職員や大学院生など約100名が参加し、熱気溢れる盛況となりました。

同プログラムは、文部科学省科学技術振興調整費「若手



あいさつする近藤院長

研究者の自立的な研究環境整備促進」事業の一環として採択されたもので、同プログラムで採用した特任教員の任期は5年であり、3年目と最終年に中間審査および最終審査を行い、可となれば推薦部局のテニュア（任期なし）教員となります。本年度は3年目にあたり、採用時に設定した中間目標の達成度を評価する目的で、書面審査および中間成果報告会でのヒアリングを中心とする中間評価を実施しています。

報告会は、斎藤 進高等研究院専任教員の司会により進められ、近藤院長のあいさつの後、13名の同プログラム特任教員が、宇宙・環境分野、物質科学分野、医学分野、生命科学分野の4分野にわたり、Science誌等に掲載されるようなレベルの高い研究成果を報告しました。それぞれの報告後には、活発な質疑応答が行われ、最後に、坂神洋次副院長が閉会の辞を述べて終了しました。

今回の報告会は、特任教員間の相互理解を深めるための異分野研究交流の機会ともなっており、学際分野の創出や共同研究などへとつながることも期待されます。